



発行日/2024年12月24日

編集・発行/堺市立健康福祉プラザ

視覚・聴覚障害者センター

聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1

Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222

Mail:mimi@sakai-kfp.info

みみより

76

ごあいさつ

宮本 幸

今年は、長引く残暑で秋は一瞬で過ぎ去り、気候の良さを満喫したのも束の間、あっという間に寒い冬の到来でした。心せわしい年の暮れを迎え、いかがお過ごしでしょうか。

令和6年元旦に能登地震が起き、その後も各地で地震や豪雨災害も起きています。南海トラフ地震は、今後30年以内に70~80%の確率で発生すると言われていています。忘れた頃にやって来る災害に備えて、改めて何を備えるか各ご家庭で話し合うことが大切です。



【非常持ち出し品・非常備蓄品チェックリスト:堺市ホームページ】

スマートフォン(携帯電話)・モバイルバッテリー・懐中電灯・電池式ラジオ・常備薬・非常食・水・携帯トイレ・身分証明書・お金(小銭含む)・ヘルメット・マスク・消毒液・ウェットティッシュ・体温計・上履き(スリッパなど)

※スマートフォン等でご覧の方はこちらをクリック⇒ <https://x.gd/07us6>

まず逃げられるように、靴は大事だよと、阪神淡路大震災を経験された方から教えてもらい、私は、枕元に使わなくなったスニーカーや、ラジオを置いています。何事もなく、新しい年が迎えられるように。今年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

開催事業報告



《保護者学習会》

10月19日(土)に京都光華女子大学の高井 小織先生を講師にお迎えし、「きこえない・きこえにくい子どものことばとこころ」をテーマに学習会を開催しました。参加者は6名と少なかったのですが、その分、先生がひとりひとりの保護者の悩みに寄り添いながらお話を進めてくださいました。先生ご自身も、左耳は全く聞こえない片耳難聴者です。中学校の難聴学級の担任をされていた時期もあり、ご自身の子ども時代のことや、関わった子どもたちのこともふりかえりながら話していただきました。



最近では新生児聴覚スクリーニング(生後3日後くらいまでに産科で行われる検査)の実施率も高くなり、難聴が発見されることは多くなりました。先天性両耳高度難聴は1000人に1~2人。先天性片耳難聴もほぼ同数ですが、後天性も合わせると200~300人に1人はいると言われています。ただ、どちらも外見からは判断が付きません。環境により「きこえる」と「きこえにくい」の差が大きい片耳難聴は、特に周囲の配慮が届きにくい。「合理的配慮の提供」は義務化されたものの、支援を受けたことがない子どもが、自分に合う支援を説明することはできません。文字がある、手話がある、図示などの視覚情報がある。さまざまな方法を経験する中で、「こんな場面ではこんな支援が欲しい」ということができます。それを仲間と一緒に話し合い、考えていく中で、自分のことを周囲のおとなに「教えられたことば」ではなく、「自分のことば」で語る力が育っていきます。そのためにも、保護者はいろいろな人と子どもたちをつなぐ「ハブ」になりましょう、という提案をいただきました。丁寧な「対話」が大切だと感じた時間でした。高井先生、ありがとうございました。

《もじサロン（筆談会・わいわいおしゃべり会）》



11月の筆談会は合計6名。難聴のほかにも身体の状態が似ているおふたりが筆談会で出会うことができ、お話が弾んでいたようでした。難聴の職員もずいぶん長い間、「一人ぼっちの難聴者」でしたので、悩みを共感できる喜びはとてよくわかります。すぐに解決しなくても、人に話して「そうそう！」「あるある！」と言い合うことができれば、重たかった気持ちが少し軽くなることがあります。ほかにも初めての方も参加され、筆談でおしゃべりする楽しさを知ってもらえたようでした。

12月は要約筆記を利用してのおしゃべり会を、進行役に堺市きこえ支援協会代表理事の小村 和子さんをお招きして開催しました。5名の参加者と職員を含め合計7名で和気あいあいとおしゃべりを楽しみました。きこえづらくて困ったこと、それに対してどんな工夫をしているかなど、他ではなかなか情報が得られないことを共有でき、センターの貸出機を借りて帰られた方もおられました。後半は、趣味について盛り上がりました。要約筆記の文字を見ながらゆっくり進めるので安心しておしゃべりに参加できると思います。

【参加者の声】

- ・ここに来ると何かしらの情報や、私だけではないという安心感を持って、居心地がよく、できるだけ参加したいと思っております。
- ・初めて参加させていただきました。参加者とおしゃべりをして人それぞれ悩みがあり参考になりました。ありがとうございます。
- ・参加できてよかったです。いろんな方のお話が聞けて、難聴者の経験が参考になりました。自分自身は耳のことで先々不安もありますので気をつけます。

筆談会は毎月行っていますが、時間帯や会場が変わることがあります。その都度、次回のご案内を確認するようにしますが、ご参加の方も改めて日時を確認を済ませたうえでお出かけくださいますようお願い致します。

《みみサロン》



11月のみみサロンは、絵本「リブと海」のイラストを担当されたデファイイラストレーターの中村 一夫さんをお迎えし「隠岐の島とクリエーション」というテーマで講演していただきました。

「リブと海」は、どこかで捨てられていた網に絡まって自由に泳げなくなったアカウミガメが、中村さんの故郷である隠岐の島に漂着したことから始まります。太平洋で生活しているはずのアカウミガメが、日本海側の隠岐の島で発見されたことや、フンにはプラスチック片が混じっていたこと等から、どんな状況で隠岐の島にたどり着いたのかがわかり、海や生き物をはじめとする自然を愛する人々はショックを受けると同時に、瀕死のアカウミガメの命をなんとか守ろうと、たくさんの方の力が集ります。

結果的に、「リブ」と名付けられたそのウミガメは海にかえって行きますが、そこへたどり着くまでの経緯（いきさつ/けい）が絵本に描かれています。

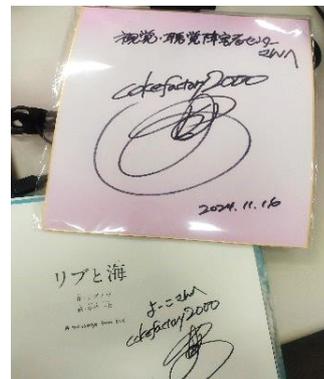
講演会では、幼少期、きこえないことで話せず、自分の意思を絵に描いて伝えていた体験もお話いただきました。中村さんにとっては、絵を描くことが「当たり前」という認識だったそうです。やがて、描いた絵を家族や友だちに見せると笑顔になってくれることで「喜び・楽しさ」へと変わっていったこと、初めての絵本製作の難しさや、イラストの道へ進むことを決めたくっかけ、似顔絵の腕前、映画製作に関わ



ることなども話していただき、盛り沢山の内容となりました。

25名の参加者も、中村さんの魅力的なお話と上手なイラストや似顔絵に夢中になっていました。職員も同様に、写真撮影を忘れる失敗をしてしまうほど…！（ご紹介できなくて申し訳ないです…。）代わりと言ってはなんですが、サインをいただきましたので掲載します。絵本はネットストア等で購入できます。売上の一部は海の環境保全活動の資金に使われます。

目まぐるしい日々の中、時にはのんびりと絵本を読む時間をもってみませんか。子どもはもちろんのこと、きっと大人の心にも響いてくれるでしょう。「デファイラストラーター」、中村一夫さんの益々のご活躍が楽しみでなりません。



【参加者の声】

- ・命の大切さ、一匹の亀を助けるためにたくさんの方が一致協力したことに深く感動しました。
- ・絵本が感動を与えることはおとなにもたくさんあります。自然とともに生きることの大切さ、人間の勝手に自然を壊してはいけない。そんな思いをみんなに持ってほしいです。
- ・島根県出身なので、大変興味深くお話を聞かせていただきました。島根を離れて50年近くがたちますが、きれいな海のイメージしかなく、ふるさとの海でもこのような問題が起きていることに本当に驚きました。これからの生活の中でできることは何か考えるきっかけとなりました。
- ・絵本に興味があったので参加してよかったです。色ぬりも個人それぞれでぬり方の決まりはないと話してくれてホッと、これからまた描きたいです！！ありがとうございました。
- ・絵本読みました。当時ニュースになっていたと思いますが記憶に残っていませんでした。地球の存続に関わることでよね…。私は最後の子ども達の絵が好きです。ありがとうございました。

障害者週間フェスティバルを開催しました

毎年12月3日～9日は「障害者週間」です。7日（土）には堺市立健康福祉プラザでも恒例のイベントが開催されました。今年も、ろう者の大道芸人「きぼう」さんによるパフォーマンスを楽しむことができました。出身は静岡県浜松市で、祖父母がろう者という環境の中で育ち、音がなく表情やパントマイムだけの「サイレント映画」を観て感動し、「無言語でパフォーマンスをすれば聞こえる人に笑いを届けることができるかも」と、独学で習得。2007年に小学校6年生でデビューされました。

当日の観客席は満員。立ち見の方もたくさんおられ、100名近い方に笑いと驚きを届けていただきました。身振りや表情だけであんなに意思を伝え、ひとりひとりに合わせたアドリブで笑いを届けることができることに驚きました。会場全部を巻き込んで大いに盛り上がり、終演後も客席を楽しませてくれました。



堺市手話言語・コミュニケーション条例普及イベント(上映会)を開催します

バリアフリー映画上映会「コーダあいのうた」
※「コーダ」とは、きこえない・きこえにくい親をもつ、きこえる子どものことです。
※「バリアフリー映画」とは、副音声・字幕を用いることにより、障害のある方、ない方が一緒に鑑賞できる映画です。

日時：令和7年2月15日（土）
・開場 午後1時30分
・条例の説明 午後2時～
・上映 午後2時20分～
場所：堺市立健康福祉プラザ 3階 大研修室
定員：70名（申込不要・当日先着順）
※この映画はPG-12（12歳未満の年少者は、保護者の助言・指導が必要）指定です。



←詳細・案内チラシはこちら
スマートフォン等でご覧の方は
↓こちらをタップ

<https://x.gd/jzG5h>

全国手話通訳者統一試験実施！

12月7日(土)に堺市手話通訳者登録試験でもある全国統一試験が実施されました。お申込者のうち1名が残念ながら欠席となりましたが、16名が受験されました。緊張しながらも一生懸命取り組んでおられました。合格発表は3月です。

修了式まであと少し！

修了式まで試験対策講座を残すのみとなりました。長かったような？短かったような？
2月16日の試験に向けて今まで勉強してきたことを思う存分、遺憾なく発揮してください！ファイト!!

センター(聴覚)の行事

※行事はすべて事前申込が必要です。

- 1月 9日(木) 14:00~15:30
もじサロン(筆談会)
- 1月10日(金) 13:30~16:30
補聴器相談
- 1月18日(土) 14:00~16:00
みみサロン
講演「薬剤師に聞く！お薬のあれこれ」
- 1月25日(土) 14:00~16:00
保護者学習会
「『わかる』が育てる子どものこころ」
- 2月13日(木) 14:00~15:30
もじサロン(筆談会)
- 2月14日(金) 13:30~16:30
補聴器相談
- 2月22日(土) 14:00~15:30
きこえのセミナー
「難聴と補聴器のお話」
ご参加をお待ちしております。

ビデオライブラリーのおすすめ

「silent 2」

想と再会した紬は、想から手話で一方向的に話され、訳が分からず戸惑います。想は高校卒業間近に、聴力を失う病氣と診断されていました。湊斗は紬と想が再会したことに多少の不安を感じながらも、紬に手話教室に通うことを勧めました。

「ちびまる子ちゃん～新春！さくらももこ脚本まつり～」

優しくて大切な親戚のお姉さんに赤ちゃんが産まれました。今までかわいがってくれていたお姉さんは、もう赤ちゃんのお母さんになったんだと、少し寂しいまる子。でも、まる子もお姉さんになったのだからと、1人で病院に赤ちゃんを見に行くことに…。



頑張っています 手話通訳・要約筆記者登録者

実施済

- ・要約筆記者実践研修 11/2
- ・手通訳者実践研修 11/14・実技研修 11/30
- ・要約筆記者実技研修 12/19 手書き・PC

- ・手話通訳者・要約筆記者合同研修 1/16
「聴覚障害者の福祉機器について」
- ・手話通訳者実践研修 2/25
「倫理規定とは何か
～通訳分野を中心に様々な分野から学ぶ～」

センター(聴覚)の

公式LINE登録はこちら→
月2回程度、情報をお届けしています。
きこえる方はご遠慮ください。



事業状況		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
10月	派遣数	210件	35件	10件	9件	11人	21本
	派遣人数	244人	79人	23人	32人	新規登録者：0人	
11月	派遣数	215件	25件	10件	15件	9人	30本
	派遣人数	235人	56人	17人	50人	新規登録者：0人	

ご協力
ありがとうございました

